

ラジエーションハウス

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



ラジエーションハウスは漫画、ドラマ、そして映画と医療従事者だけでなく広く全国的にも話題となり、主人公である診療放射線技師という職業が多くの国民に認知されることになりました。

2019年にはシーズンI、2021年にはシーズンII、そして2022年には劇場版が公開されました。最高視聴率はドラマシーズンIの特別編で15.6%、シーズンIIでは11.7%でした。NHK全国視聴率調査において1%は7歳以上の国民約110万人と言われていています（現代用語の基礎知識2006）。最高視聴率であった特別編を観た人は1,716万人、一度でも観た人を入れるとさらに多くの視聴者がこのドラマを観たということになります。

私もシーズンIIの第5話、第8話、第10話を監修させていただき、貴重な経験をさせていただきました。

そもそも私にとってラジエーションハウスとの関わりは、2015年集英社グランドジャンプにて連載開始された時のことです。診療放射線技師が主人公となる漫画が連載されることを聞いた時は正直言ってあまり期待していませんでした。そして職場近くのコンビニでグランドジャンプを買うやいなや、そのコンビニの駐車場で、ラジエーションハウス第1話を読むと・・・

「面白い！！」

私はいてもたってもいられず、面識の無い、監修の五月女先生に自分の医療現場におけるエ

ピソードを送り付けたのです。今考えれば極めて無礼な行動ですが、私の人生において面白いと思える貴重な経験となったのです。「何か熱い思いを抱いた時はとにかく行動することだ」ということを学びました。もちろん、文才の無い私のエピソードは使われることはありませんでしたが。

さて、ドラマや映画の監修では、数多くの著名な役者さんたちとお会いすることができました。私は、恥ずかしながら芸能関係に疎く、世間でよく言われる「演技派俳優」という言葉を理解していませんでした。俳優とはそもそも演技をするものだし、有名な俳優はビジュアルや役者の持つ雰囲気を選ばれるものだと考えていたのです。しかし、それは大きな間違いでした。撮影の現場では、つい、数分前まで役者さんやスタッフさんと和気あいあいしていたにも関わらず、撮影が始まると、役者としての気持ちを混入させ、セリフを間違えずに役をこなします。例えば「純型肺動脈閉鎖症」という病名を含むセリフについては医療従事者でさえ専門でなければ舌をかみそうになりますが、役者さんは長いセリフでもほぼ一発で言い切るのです。監督さんから取り直しの指示がある場合の多くは、その目線であったり、周囲のセットの配置であったり。つまり、役者さんは俳優業としての、いわゆるその道のプロなのです。

さらには、一流の役者さんは人間性も一流であるということを知りました。ワンカットを撮るのに周囲には小道具さん、音声さん、照明さ

ん、メイクさん、アシスタントさんなど、数十人のスタッフさんが働いています。私たち医療監修に対しても心遣いを忘れません。良い仕事をするためには職場の雰囲気大切に、良さチームを作るという表れなのでしょう。

そして、これまであまり意識してこなかった監督（演出）業についてです。作品のイメージは全て監督によって決まると言っても過言ではありません。カメラアングル、役者さんの配置や、小道具の配置や動きまで詳細な指示をだします。おそらく、監督の頭の中にはイメージができていて、それをカットごとに撮影していくのだと思います。いわゆる芸術家ともいえる業種です。

監督業には何種類かのタイプがいるといわれます。トップダウンで撮影を進めていく監督。逆に照明さんやカメラさんから意見を取り上げ、ボトムアップ方式で最終決断は監督が行う。正解はありませんが、リーダーシップの取り方では他の職業と同じです。

ちなみにドラマラジエーションハウスⅠ・Ⅱの一部、劇場版ラジエーションハウスの監督はHERO、GTO、マスカレードホテル、本能寺ホテルなど多数の有名な作品を手掛けた著名な監督であり、フジテレビがラジエーションハウスに大きく期待していたことがよく分かるエピソードです。

ここまでは、TVドラマ、劇場版のお話を書かせていただきましたが、原作の漫画ラジエーションハウスに触れたいと思います。

一般的には、原作をベースにドラマや映画を作成し、監督によって多少の味付けが異なる作

品が多いようです。従って、原作からはストーリーは大きく外れないのが一般的です。しかし、ドラマラジエーションハウスⅡは漫画のストーリーを追い抜いてしまい、ストーリーが平行になるという異例の展開になりました。

実は、個人的には漫画の方が好みなのです。ネタバレを避けるために詳細な内容は書けませんが、診療放射線技師にとって「アルアル」な内容が満載で、非医療人に対しては「ナルホド」が数多くちりばめられています。漫画、ドラマ、映画の魅力の一つとして「ナルホド」をストーリーの中に散りばめるといわれています。さらには、漫画にはドラマや映画よりも「自由度」があることが魅力の一つです。先ほど、個人的には漫画のストーリーが好きだということを書きましたが、漫画ラジエーションハウスは原作者が自由に描くことで、感動シーンは非常に良く描けていると思います。

漫画の単行本は13巻まで発売されています。診療放射線技師という職業を選んだ記念として漫画ラジエーションハウスを大人買いしてはいかがでしょうか。もし、漫画を読まれていない方は、二重に楽しめるはずです。

今回の経験は私にとって、あらためて「人生は面白い」と感じたエピソードでした。見返りを期待せず、自分の信念を行動に移すことで、きっと面白いことが起きること間違いなしです。

熱い思いを行動に移すことは何かの始まりなのです。

今年一年、皆さんの活躍に力添えができればと思い、本稿を年初の巻頭言と致しました。